

最優秀賞  
外務大臣賞

# 「未来への積み立て投資」

〔埼玉県〕

さいたま市立浦和中学校 3年 町田 愛奈

私は、今年八月に行われたさいたま市模擬国連大会に参加した。私が担当したのは中国大使だった。中国は世界最大の二酸化炭素排出国であり、国際的な気候変動対策には欠かせない存在だ。私は中国という国の立場で「脱炭素に積極的」と主張したが、議論を進めるうちに、実際には経済成長を優先したいという考えが生まれる場面に何度も直面した。

ある国が「二〇三〇年までに二酸化炭素排出を半減しよう」と提案すると、中国の立場としては「技術的にも経済的にも現実的ではない」ため賛同できない。排出削減に強く出れば、他国から評価される一方、自国の経済的・技術的発展を妨げることになる。

この「本音と建前のバランス」をとりながら交渉することの難しさ、そして他国の代表たちもまた、それぞれの事情や利害を抱えていることを痛感した。議論の中でも、自国が何を優先すべきで、どこまで妥協できるのか、その塩梅を見つけることに苦戦した。様々な対策案が出される中で全員の利害が一致し、納得する案が出せないもどかしさを覚えた。

最終的な合意形成には時間がかかった。だが、どの国の代表も「未来を守りたい」という共通の願いを持っていた。相手の立場を理解し、譲れる部分を探り、わずかでも合意に近づいていく過程は私の心にとどまっていたもどかしさが次々に解決されていくようで嬉しく、忘れられない経験となった。

この経験を通じて、私はSDGsの目標十三「気候変動に具体的な対策を」がどれほど複雑で繊細な課題かを実感した。以前までは、環境破壊を防ぐことは政府が動けばすぐに問題解決ができるだろうと、安易に考えていた。「環境破壊を防ごう」ということ自体は簡単だが、そこには、経済・政治・歴史など多くの要素が絡み合っている。だからこそ、すぐに解決はできない。それでも、他国と対話し続けたり、諦めずに交渉し続けたり、そのような努力を積み立てることが、問題解決には欠かせないのだと思う。

気候変動は、一人で解決できる問題ではない。ましてや中学生の私にできることは限られる。けれど、年齢に関係なく、一人ひとりが「自分の行動は未来につながっている」と意識することから変化は始まると思う。例えば学校生活での取り組みとしては、種類ごとのゴミ箱を設置し、分別を促したり、手洗い中の節水を心がけて水の使用量を減らしたり、プリントの裏紙を再利用したりすることが挙げられるだろう。このような小さいことでも積み立てをしていくことが重要なのだ。

世界の国々は利害で分断されているようで実は未来への思いでつながっている。いつか諦めない対話と行動によってすべての国の利害が一致し、気候変動が改善され、誰もが平等に幸せに暮らすことのできる世界に変わっていくことを願う。そのために私は今日も自分の未来を形作る小さい行動、いわば未来への“積み立て投資”を続けていこうと思う。